

平成29年度千葉県社会福祉審議会低所得階層福祉専門分科会
開催結果概要

- 1 日 時 平成29年9月11日（月）
午後3時00分から同3時50分まで
- 2 場 所 ホテルプラザ菜の花 5階「コスモス」
- 3 出席委員 榎本豊分科会長、小島信夫委員、實川隆委員、
白戸章雄委員（委員：総数7名中4名出席）

- 4 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) あいさつ
 - (3) 議 題
低所得階層福祉専門分科会長の選出について
 - (4) 報告事項
子どもの貧困に関する指標の状況及び施策の実施状況について
 - (5) 閉 会

- 5 議 事
 - (1) 分科会長の選出について
榎本委員を分科会長に選出
 - (2) 子どもの貧困に関する指標の状況及び施策の実施状況について
 - ①事務局説明
別添「資料1」「資料2」により説明
 - ②主な意見及び質疑応答

（質問）

児童扶養手当は子ではなく、親がもらっているが、親が競馬等に使うなどして自分の生活費に使ってしまうことがある。

子どもに確実に手当が渡るような形にした方が良いのではないか。

（回答）

児童扶養手当は国の制度であるため、今後、国の会議等で話をしたい。

（意見）

子どもの貧困は子どもに責任はない。教育は平等に受けられるようにした方が良いと思う。

(質問)

スクールソーシャルワーカーの配置人数の増加などプラスの面はよいが、生活保護受給者の進学率や就職率の減少などマイナスの面について、詳しく調べてあるのか。分かる範囲で教えていただきたい。

(回答)

指標2の生活保護を受けている子供の高等学校進学率について、基準日が平成27年3月、今回示した数値は平成28年3月の数値となっている。計画を作り、施策を進め始めたのが平成27年12月であるため、指標の改善については時間がかかると思われ、また平成28年3月の段階では、施策の効果については、まだあらわれてない状況だったと考えられる。

(意見)

中学校卒業後進学もせず、就職も出来ない子どもが約8割、高校卒業後約4割が就職していないので、この要因を分析して何が問題か、次の検討にもなるので、分析をお願いしたい。

(質問)

ひとり親世帯で子育てをしている世帯について、資格を取る際にも補助金を出してくれるなど施策がかなり充実化しているように見えるが、実際はどうか。

(回答)

国で「すくすくサポート・プロジェクト」というものを立ち上げている。就労支援でも県社協等に委託して行うものではあるが、職業訓練や貸付事業等を新たに平成28年から始め、50件申請があった。

その他にも継続事業の母子家庭等を対象とした給付金なども、ある程度制度の拡充が図られており、特に就労支援は大事なことであるため、制度の充実、拡充を図っているところである。

(質問)

制度の情報提供などは特段行っていることはあるか。

(回答)

県のホームページに掲載をするなど周知は図っている。

(意見)

昔から厳しい家庭でも両親の理解があると、なんとか工面している。親の

子供に対する教育や考え方について、確かに経済的な面が1番かもしれないが、親の子どもに対する理解がないことがあるのではないか。

親の代わりに子どもの居場所づくり、学習支援なども県と市町村で始めているので、広げていくしかないのではないかと思う。

(質問)

学童クラブで、子どもたちを預かっているが、せっかく集まっているので勉強を教えてはいけないのか。教えるのは親になるのか。

(回答)

学童クラブは、勉強を教えてはいけないということはない。自分から宿題を持ってきて、その場で教えることは可能である。

また、教育庁が行う、放課後子ども教室という事業があり、これは学習支援やスポーツなど教育的、文化的な授業を行っている。

(意見)

学童クラブは、お母さん方が忙しい中で行っているので大変である。時間が無いため、そういう所に預けているが、役員としての活動があって大変だという声がある。どこかの機関がやってほしいという声もある。

以上